

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012年 10月 22日

派遣者氏名（専門分野）	藤田 智子	（ 社会学 ）
-------------	-------	---------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	オーストラリア家族と生殖補助医療に関する歴史社会学的研究 — 1930年代から1960年代を中心に
-------	--

派遣期間

2012年 7月 25日 ～ 2012年 9月 26日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	オーストラリア	シドニー	ニュー・サウス・ウェールズ州 記録局（公文書館）・州立図書館	なし
	オーストラリア	メルボルン	メルボルン大学・ヴィクトリア 州立図書館	なし
	オーストラリア	メルボルン	Royal Women's Hospital	(Archivist: Robyn Waymouth)

派遣先で実施した研究内容

本研究は、オーストラリアにおいて「子ども／家族をつくる」ための技術（不妊治療に使用されてきた技術全般）が発展し、家族を計画するということが浸透する過程を、家族をめぐる線引きと社会規範（家族規範やジェンダー規範、セクシュアリティのあり方などを含む）に焦点を当てて分析することを目的とする。今回の派遣調査においては、特に、オーストラリアにおいて近代家族が成立・拡大した1930年代から1960年代に焦点を当て、シドニーおよびメルボルンにおける不妊治療クリニックの展開を見るなかで、「不妊」であることが「治療」の対象になり、不妊治療を通して「オーストラリア家族」が構築される過程とその社会的背景や要因について分析する予定であった。派遣中は、シドニーとメルボルンにそれぞれ約1ヶ月滞在し、具体的には、以下のような調査・研究を実施した。

Crown Street Women's Hospitalの不妊治療クリニック等に関する資料調査

シドニーでは、まず、ニュー・サウス・ウェールズ州記録局（公文書館）にて、Crown Street Women's Hospitalの年次報告書、Medical and Clinical Reports、Hospital Boardの議事録などの資料調査を行った。この病院に関する資料はデータベース化されていなかったうえ、公文書館にファイルされているリストが正確ではなかったため、時間を要したが、何とか当初計画していた分の資料は見ることができた。

Royal Women's Hospitalにおける不妊治療クリニックに関する資料調査

メルボルンでは、Royal Women's Hospital (RWH) のアーカイブスを訪れ、年次報告書、Medical and Clinical Reports、Board of Managementの議事録およびその他関連する資料を収集した。アーカイブスのデータベースは外部公開されておらず、基本的にはアーカイビストにお願いをして検索してもらわねばならないが、彼女の協力を得て、スムーズに資料調査を行うことができた。

その他の資料の収集と先行研究のさらなる検討

シドニー滞在中の後半には、ニュー・サウス・ウェールズ州立図書館にて、National Health and Medical Research Council の報告書などを含む政府文書、Medical Journal of Australia を含む医療雑誌、新聞や女性誌、およびその他関連資料の調査、収集を行った。一方、メルボルン滞在中は、RWH のアーカイブスでの調査終了後や週末に、メルボルン大学の図書館やヴィクトリア州立図書館にて、新聞記事やその他関連資料の調査、収集を行うとともに、特にメルボルン到着後すぐに面会したラ・トローブ大学の K.レイガー博士からの助言を参考に、先行研究のさらなる収集と分析にも力を入れた。

本研究に関わって重要と思われる方々からの聞き取り

またメルボルンでは、本研究に関わって重要と思われる方々と会い、話を聞くこともできた。先に挙げた、K.レイガー博士（専門は、オーストラリア家族の社会史や母子保健に関わる社会政策など）、さらには、元 RWH の理事長であるギサ・ベセラス氏や、家族計画および IVF（体外受精）、両分野においてメルボルン（モナッシュ大学）にて活躍されてきたジョン・リートン氏などにも面会した。ギサ・ベセラス氏との面会からは、メルボルンにおける産婦人科病院と生殖医療、家族計画の全体像をつかむことができた。ジョン・リートン氏からは、自身のライフストーリーを中心に話を聞くことができた。メルボルンにおける当時の生殖補助医療をめぐる状況のみならず、科学者、そして医者視点から、その当時の社会状況をどのようにとらえていたのかという話も聞くことができた。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

上述の研究当初の目的の達成状況は、以下のとおりである。

- (1) K.レイガー博士との面談および先行研究のさらなる検討を通し、それらから学ぶとともに、本研究の位置づけを再確認した。
- (2) シドニーとメルボルンにおける不妊治療クリニックに関する調査を通し、オーストラリアの 2 大都市において、不妊治療クリニックがいかに展開してきたのかを把握することができた。さらに、RWH などのメルボルンのクリニック／病院が、その後、1960 年代・70 年代以降、生殖補助医療（特に体外受精）の展開の一端を担っていく過程についても把握することができた。
- (3) 政府文書や医療雑誌、新聞の収集・分析、さらにはギサ・ベセラス氏などへの聞き取りを通して、不妊治療クリニックが展開した政治的・社会的背景や、その他の都市におけるクリニックの誕生などについても明らかにすることができた。今回面会したベセラス氏およびリートン氏には、今後、必要に応じてよりフォーマルなインタビューを実施予定である。

派遣後の研究発表の予定

今回の派遣を通して得られたデータを詳細に分析し、さらに必要な調査を重ね、その結果をまとめて、比較家族史学会（2013 年 5 月）あるいは日本社会学会（2013 年 10 月／11 月）などで報告する予定である。またその後、学会発表での成果を出来る限り英語論文としてまとめ、International Australian Studies Association の学会誌等への投稿を目指す予定である。